
(0) 昨年度協議会の振り返り



○事務局からの説明

1. サーキュラーエコノミー移行に向けた本県の現状及び課題について 2. 県のプラスチック対策事業について

○委員からの意見

(1について)

- ・動脈側静脈側双方のマッチングする場が必要。
- ・再生利用について、特にプラスチックは単一の素材を集めることが重要

(2について)

- ・再生材活用を推進する取組が必要。
- ・幼少期の意識付けが大切。



R7後期事業及びR8事業へ反映

(R7後期)

- ・排出事業者向け講習会:①川上産業株式会社 <気泡緩衝材「プチプチ®」の資源循環の取組>
②日榮新化株式会社 <ラベルを使う、だからこそ。資源循環プロジェクト>
- ・処理事業者向け講習会:リバー株式会社 <サーキュラーエコノミーの実現に向けた静脈産業の役割期待>
- ・動静脈連携マッチングセミナー:(公財)産業廃棄物処理事業振興財団と共催(動脈産業:6社、静脈産業9社)
- ・栃木県環境総合計画【資源循環対策関連】の策定
→サーキュラーエコノミー動静脈産業マッチング件数、環境学習実施数を指標に位置付け

(R8)

- ・とちぎサーキュラーエコノミー移行推進事業(**新規事業**)
→①動静脈連携ビジネスマッチング推進事業:動静脈企業を対象としたマッチングセミナーの実施、企業グループへの伴走支援
②CE型ビジネスモデル構築支援事業:CE型ビジネス創出に係るモデル事業への助成(補助率2/3、上限7,500千円、4件程度)
③CE普及啓発事業:啓発用動画の制作
④CE移行推進事業(産業労働観光部):製造事業者におけるCE推進に向けたセミナー、研究会等の開催
- ・海洋プラごみ講演会の実施:10月頃になかがわ水遊園での実施を予定

(1) サーキュラーエコノミー移行に係る県の取組 について

循環経済は、資源循環と成長の好循環を目指す新たな経済の概念



■循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行は、資源や製品を経済活動の様々な段階で循環させることで、資源効率性を上げ、新たな資源の採取、エネルギーの消費や廃棄物発生をミニマム化するとともに、その循環の中で付加価値を生み出し、新たな成長の扉を開く鍵。



線形経済(リニアエコノミー)の限界

天然資源 → 大量生産 → 大量消費 → 大量廃棄

資源の採掘から加工、廃棄に至るライフサイクルにおける大量の温室効果ガスの排出

資源枯渇
資源採掘による環境負荷

廃棄による環境負荷
(海洋プラスチック、有害物質等)

循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行

天然
資源

効率的生産

- ・ 環境配慮設計
- ・ 再生材の利用
- ・ リデュース

効率的利用

- ・ リユース、シェア、サービス化など、高い利便性と効率化の両立

回収・
リサイクル

- ・ 回収の拡大
- ・ 再生材の供給増、レアメタルの確保
- ・ 技術革新、品質向上

廃棄

脱炭素化の推進、産業競争力の強化、地方創生、経済安全保障への貢献

サーキュラーエコノミーをめぐる世界・日本の状況



- 各国で重要鉱物及びリサイクル資源の輸出管理強化、国内資源確保、グローバル企業の再生材利用が進む中、我が国では石油・金属等の資源を輸入に依存する一方で、国内のリサイクル原料の多くが焼却、輸出されている現状がある。
- 我が国産業が競争力を強化していくためには、一次資源の安定供給確保に加え、二次資源である再生材の質・量の確保と利用拡大を推進し、国際的な資源獲得競争で優位に立つことが重要。我が国の経済安全保障にも直結。

世界各国の政策動向

重要鉱物・リサイクル資源に関する輸出管理強化・国内資源確保の動き

【EU】

- EU域外への廃電子機器等の輸出規制を強化（2024年施行）
- 廃自動車規則案暫定合意（2025年12月）
 - 再生プラ使用義務化等
- バッテリー規則
 - 廃バッテリーの回収義務化（一部2023年～）、バッテリー製造時の再生材利用の義務化（2031年～）等
- 2025年12月に、リサイクル資源を含む重要原材料の供給確保策をまとめたREsourceEU行動計画を策定

【アメリカ】

- 国内発生の高品質銅スクラップの一部を2027年から国内販売義務付け
- レアメタルのリサイクルを実施する企業へ金融支援を措置

【中国】

- 重要鉱物の輸出管理（2023年以降）や金属スクラップ（銅・アルミ）輸入規則緩和（2024年）を実施
- 2024年に国策企業の中国資源循環集団（資本金約2千億円）を設立

ASEANを中心とした国際連携ニーズの高まり

【ASEAN諸国】

- 不適正処理やリサイクルによる環境汚染の深刻化
- E-wasteの発生量が急増

グローバル企業の取組

- ブランド価値向上の観点から、再生材を利用する動きが加速

日本

動静脈連携が十分に進んでおらず、基幹産業に再生材を質・量・コストの面で安定的に調達できるサプライチェーンが確立されていない現状を踏まえつつ、日本の優れた技術やノウハウを活用した対応が求められている。

再生材利用

プラスチック
約43万トン（廃プラの4.7%）

資源輸入

石油、金属をはじめとした資源を輸入に依存（石油・ナフサ・鉱石・金属・金属製品輸入額 約31兆円）

海外輸出

金属：
鉄スクラップ 771万トン
アルミスクラップ 44万トン
銅スクラップ 42万トン

プラスチック
約126万トン（国内利用の約3倍）

静脈企業売上

欧州(Veolia) :
約7.3兆円
米国(Waste Management) :
約3.3兆円
日本(DOWA) :
約6,800億円

焼却処理等

食品ロス :
焼却・埋立等 約464万トン
プラスチック :
焼却・埋立等 約709万トン
(廃プラの約8割)

(注) 数字は年間の値

廃棄物等を資源として最大限活用し、
付加価値を生み出し、新たな成長につなげる
経済社会システムへの転換が必要



1 将来像(令和17(2035)年度における本県のイメージ)

自然と共生し、脱炭素と資源循環による「持続可能な環境立県とちぎ」

2 基本目標

基本目標① カーボンニュートラル（脱炭素化）の推進と気候変動への適応を目指す「とちぎ」

再生可能エネルギーの導入促進や省エネルギーなどによる温室効果ガスの排出削減対策、森林吸収源対策の推進によるカーボンニュートラルを目指すほか、地球温暖化による気候変動への適応対策を推進します。

基本目標② サーキュラーエコノミー（循環経済）への移行を推進する「とちぎ」

循環型社会の形成に向け、あらゆる主体において資源循環に向けた取組を拡大していくとともに、持続可能な形で資源を効率的・循環的に有効利用するサーキュラーエコノミーへの移行を推進します。

基本目標③ 人と自然が共生し、ネイチャーポジティブ（自然再興）の推進を目指す「とちぎ」

多様な動植物の生態系が維持され、県民が自然と共生しながら日々の暮らしを営むことができるよう、生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブの推進や、豊かな自然環境の保全と活用の両立などに取り組みます。

共通的・基盤的施策

県民の安全・安心な生活環境を保全するため、環境汚染防止対策を推進するほか、災害レジリエンス強化に資するエネルギー産業の振興や、様々な環境教育や意識啓発を通じて次代を担う環境人材の育成などに取り組みます。



3 基本方針

7Rの促進等により、循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行を推進し、持続可能な循環型経済を目指す。



▶ 7Rの促進



循環型社会の形成



【本県の課題】

- 動脈側(製造業者)と静脈側(リサイクル業者)の双方にとって必要な情報が不足している。
- QCD(品質・コスト・納期)の事業面で、企業が事業展開できる経済原則に見合うレベルに達していない。
- そもそも県民や事業者の認知度が低い。



【対応の方向性】

- 動脈企業と静脈企業のマッチング環境の創出・伴走支援、モデル事業への助成
- 県民・事業者への普及啓発、県内製造業における技術向上等



【R8予算】

区 分	予算(千円)	内 容
①動静脈連携ビジネスマッチング推進事業費	5,987	マッチングセミナーの開催、マッチングした企業グループに対する専門家派遣
②CE型ビジネスモデル構築支援事業費	30,000	事業主体:CEに取り組む企業グループ 補助対象経費:必要な研究費、労務費、原材料費等 補助率:2/3以内 補助上限額:7,500千円
③CE普及啓発事業費	3,300	普及啓発動画の作成
④CE移行推進事業費	1,957	再生材の利用促進に向けたワークショップ等の開催

とちぎサーキュラーエコノミー移行推進事業①



○動静脈連携ビジネスマッチング推進事業費

サーキュラーエコノミー 動静脈連携マッチングセミナー

～サーキュラーエコノミー(循環経済)への移行に向けて～

共催： 栃木県 WMF 公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団

国際的な資源需要の拡大と、地政学的リスクの高まりによる資源制約や気候変動などの環境制約から、サーキュラーエコノミー（以下、C E）への移行が国家戦略と位置付けられました。本セミナーでは、栃木県内の製造業者（動脈産業）、廃棄物処理業を含む再資源化事業者（静脈産業）が、資源循環を考えるきっかけや手がかりとなるよう、動静脈間での意見交換を実施します。

今後、さらに加速度的に事業環境が変化していく中で、C E移行に積極的に参加いただく機会として、是非、ご参加ください。

プログラム

○開催日時:令和8年2月20日(金)13:30~16:50(13:00開場)
○開催場所:栃木県庁 東館 4階講堂(栃木県宇都宮市埴田1-1-20)
○対象循環資源:建設廃棄物、廃プラスチック

時間	テーマ、項目、内容等
13:30	【開会挨拶】栃木県 環境森林部 資源循環推進課
13:35~13:55	【基調講演】 サーキュラーエコノミーと産廃財団の地域支援方策について (公財)産業廃棄物処理事業振興財団 常務理事 山越 厚志 氏
13:55~14:20	【事例紹介】 埼玉県での動静脈連携の取組と具体例 埼玉県 環境科学国際センター 川崎 幹生 氏
14:20~15:00	【情報提供<動脈側2社(予定)>】 再生材利用状況や再生材に代替できる部材等について
15:00~15:40	【情報提供<静脈側2社(予定)>】 資源化状況や資源化の可能性のある廃棄物等について
15:40~15:50	休憩
15:50~16:50	【グループディスカッション】
16:50	【閉会挨拶】栃木県 環境森林部 資源循環推進課

※現時点でのプログラム案になりますので、変更となる場合があります。

定員・お申し込み方法

先着40名(定員に達し次第終了)
申込締切:2月5日(木)まで ※動脈企業・静脈企業 各20名程度
お申し込みは右の二次元コードまたは下記URLから
<https://forms.office.com/r/v2aG8meCGp>

参加費 無料
事前申込制

お問い合わせ先

栃木県 環境森林部 資源循環推進課(担当:佐藤、後藤)
TEL:028-623-3228 E-mail:puragomizero@pref.tochigi.lg.jp

※令和8年1月1日~募集開始



ビジネスモデルの構築や
取組事例の横展開を目指し、
伴走支援を実施



○サーキュラーエコノミー型ビジネスモデル構築支援事業費

【令和8年度】栃木県

サーキュラーエコノミー型ビジネスモデル 構築支援事業補助金

資源の循環利用と県内産業の成長のため、動静脈企業等が連携して取り組むサーキュラーエコノミー型ビジネスモデルの構築を支援します！

※サーキュラーエコノミー：廃棄物の発生を最小限に抑え、資源を効率的かつ循環的に利用する経済システム



【募集期間】

令和8年 4月20日(月)～5月27日(水)

制度概要

1. 補助対象事業

県内のサーキュラーエコノミー型ビジネスモデルの創出に係る事業であって、新規に取り組むリーディングモデルとなる先進的な事業 など
※補助事業の完了後3年以内に県内で事業化を目指す事業であることが要件

2. 補助対象者

取組を行う企業グループのうち、県内に事業所を有する中小企業であって、代表となって事業に取り組む者

3. 補助事業内容

補助率：**3分の2**、補助上限額：**750万円**
事業期間：交付決定日から令和9年2月末まで

4. 補助対象経費

- 材料費(原材料費)
- 労務費(人件費)
- 事業経費(委託費、技術指導費、賃借料、運搬費、販路開拓費、機械装置・工具器具、その他経費)

採択件数

4 件程度

※サーキュラーエコノミー型ビジネスモデルとは・・・
→リデュース、リユース、リサイクルなどにおける先進的な取組による環境保全や経済成長に繋がるビジネスモデルを想定。

※リーディングモデルとなる先進的な事業とは・・・
→例えば、まだ資源として循環利用が一般的でない、焼却されてしまっている廃棄物を、資源としてリサイクルしていく事業等を指す。
・また、プラスチック等の水平リサイクルの先進技術の実装を目指す事業や、ワンウェイ容器の大幅な削減を行う事業、環境配慮を強化したリユース事業など先進的なビジネス等も含む

二次募集予定

(募集期間：●月●日～●月●日)

【問合せ先】

栃木県 環境森林部 資源循環推進課
電話：028-623-3228

URL：<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d05/circuler.business.html>



とちぎサーキュラーエコノミー移行推進事業③



○サーキュラーエコノミー普及啓発事業費



- ・ Youtube栃木県公式チャンネル、県HP、事業者向け研修会、学校教育等での使用を想定し作成。
 - ・ 併せて、Youtubeインストリーム公告等の使用を想定したショート動画を作成
- ※12月末完成見込み

とちぎサーキュラーエコノミー移行推進事業④



○サーキュラーエコノミー移行推進事業費(産業労働観光部)

①セミナー (全製造事業者対象) (2回)

製造業全体を対象に、セミナーを通じて、基礎知識や課題、ものづくり変革の理解を深める。

- ・サーキュラーエコノミー実現に向けた現状と課題
- ・サーキュラーエコノミーが促進するものづくり変革

②プラスチック資源循環研究会 (2回)

県内製造業者のプラスチック資源循環技術に関する知見を深めるため、外部有識者による先進技術・事例紹介を行う。

③プラスチック資源循環ワーキンググループ (WG)

プラスチック製造事業者、再生材を製造する再資源化事業者が連携し、再生材を使用した製品の試作や物性試験等を通じて、再生材を活用した成形加工技術の高度化を図る。

予定時期	実施内容
6月～7月	・第1回研究会、令和8年度WG参加企業募集
8月7日	・第1回研究会 ・第1回ワーキンググループ(実証試験の内容検討)
8月～12月	実証試験 ・再生材のリペレット(静脈企業) ・再生材の成形試験(動脈企業) ・物性試験等(県南技術支援センター)
2月	・第2回研究会 ・第2回WG(実証試験結果の報告等に関する意見交換)

令和8年度 サーキュラーエコノミー推進セミナー(第1回) 開催の御案内

資源を無駄なく活用する取り組みとして「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」が進められており、近年では、これをさらに発展させ、経済活動の中で資源を循環させる「サーキュラーエコノミー(CE)」への転換が、国内外で加速しています。製造業においても再生材の利用や資源循環への対応は、今後の製品づくりや取引環境に関わる重要なテーマになりつつあります。

そこで栃木県では、CEに関連した最新事例や技術動向等について学ぶセミナーを全2回に渡り実施いたします。

第1回は、リサイクル技術の第一人者である、早稲田大学 所 千晴先生をお招きし、CEへの移行に向けた現状や展望の他、「分離」や「回収」といった、技術的な事例についても御講演いただきます。また、栃木県における取り組み及びプラスチック資源循環研究会の実施についても御紹介いたします。

1 場 所 栃木県産業技術センター 多目的ホール
栃木県宇都宮市ゆいの杜 1-5-20 とちぎ産業創造プラザ内

2 日 時 令和8(2026)年 6月22日(月) 13:30～16:30

3 参 加 費 無料

4 開催内容

(1) 講演「サーキュラーエコノミー実現に向けた現状と課題」

講師: 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部
教授 所 千晴 氏

【略歴】

2003年東京大学大学院工学系研究科にて博士(工学)を取得
専門は資源循環工学・化学工学・粉体工学
早稲田大学理工学術院助手、専任講師、准教授を経て2015年より教授
2024年9月より早稲田大学理工学術院創造理工学部学部長・研究科長



(2) 栃木県の取り組みについての紹介 資源循環推進課

(3) 令和8(2026)年度プラスチック資源循環研究会及びWG活動計画の紹介 産業技術センター県南技術支援センター

5 申込方法(申込期限: 令和8(2026)年6月)

とちぎ地域企業応援ネットワークポータルサイトより

<https://tochigi-network.com/event/3014>の申込

「6 お問合せ先」メールアドレスへのメールでお

※メールでのお申込みの場合には、企業名、連絡担当

参加者名を御記入ください。

6 お問合せ先

産業技術センター県南技術支援センター 化学・資

担当: 山ノ井、金子、渡辺

TEL: 0283-22-0733 E-mail: kennan-gc@pref





とちぎサーキュラーエコノミー移行推進事業の財源：国（地域未来交付金）1／2、県（一般財源）1／2

地域未来交付金

地域未来 推進型

地方の大きな伸び代と地域特性を最大限に活かし、地場産業の付加価値向上等を通じて、地方の暮らしの安定を実現し、「強い経済」を構築するため、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく地域独自の取組を、計画から実施まで後押しする



スタートアップ支援拠点の整備



地場産品の販売促進



温泉施設等観光拠点の整備



デジタル実装型

デジタル技術を活用した地域の課題解決や魅力向上に資する取組を支援



書かない窓口



地域アプリ



オンライン診療

地域防災 緊急整備型

避難生活環境を抜本的に改善するため、地方公共団体の先進的な防災の取組を支援

地域産業構造転換 インフラ整備推進型

半導体等の戦略分野におけるリーディングプロジェクトの産業拠点整備等に必要となる関連インフラの整備を支援

【事業効果の検証】

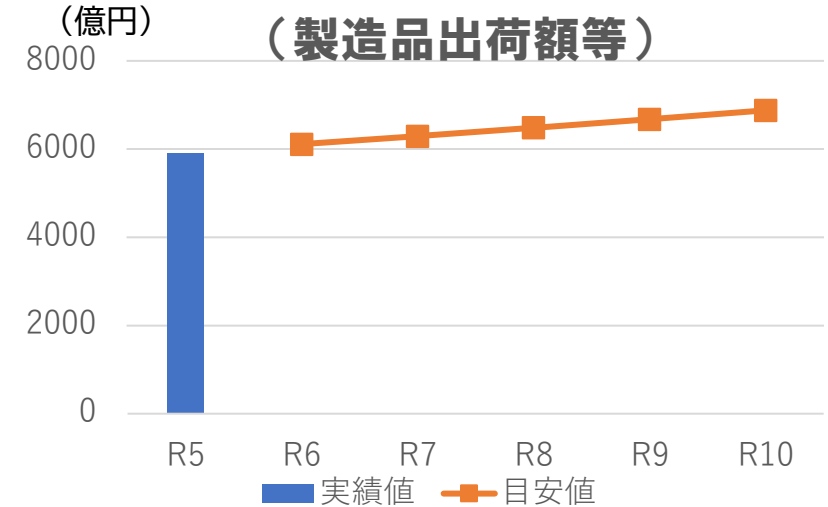
- ・ KPI（重要業績評価指標）を設定し、複数年にわたって費用対効果を計測する。
- ・ 多様な主体が参画する当協議会においてKPIの進捗管理による効果検証を実施する。
- ・ 効果検証の結果については、その後の事業の見直しに反映させる。



KPI①:製造品出荷額等(プラスチック製品製造業)

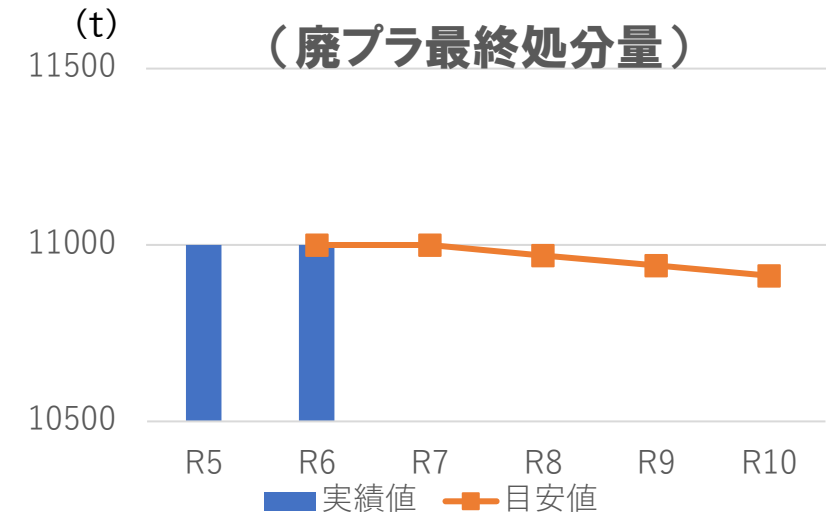
	基準値 R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	目標値 R10 (2028)
目安値	5,903	6,112	6,295	6,484	6,678	6,879
実績値		※				

※R8.8頃公開予定



KPI②:県内で排出された廃プラスチック類(産廃)の最終処分量

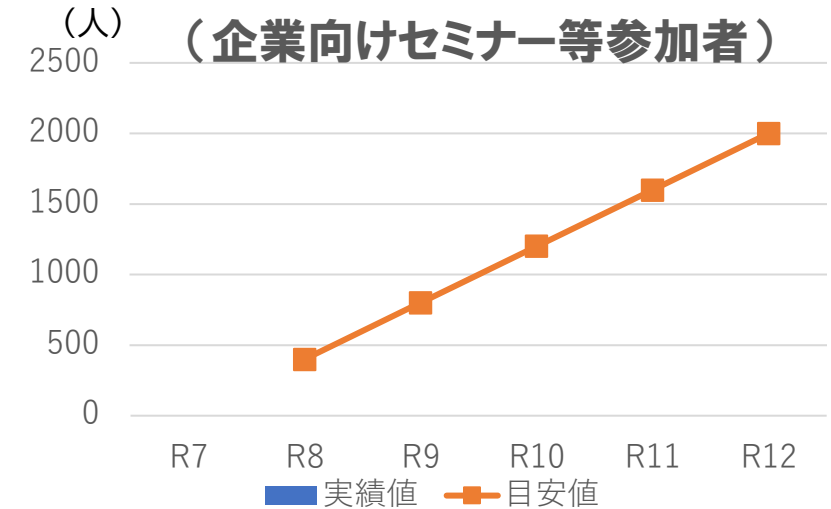
	基準値 R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	目標値 R10 (2028)
目安値	11,000	11,000	11,000	10,970	10,942	10,913
実績値		11,000				





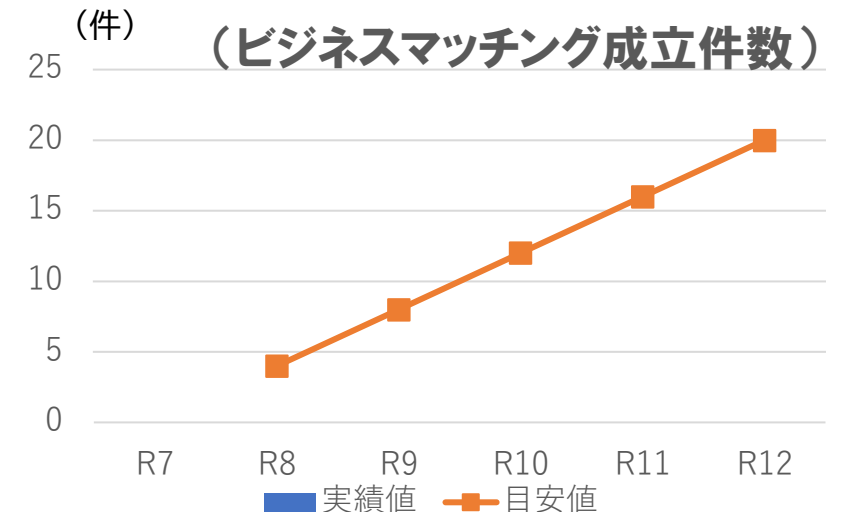
KPI③:サーキュラーエコノミー技術に関する企業向けセミナー等の参加者(累計)

	基準値 R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	目標値 R12 (2030)
目安値	0	400	800	1,200	1,600	2,000
実績値						



KPI④:ビジネスマッチング成立件数(累計)

	基準値 R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	目標値 R12 (2030)
目安値	0	4	8	12	16	20
実績値						

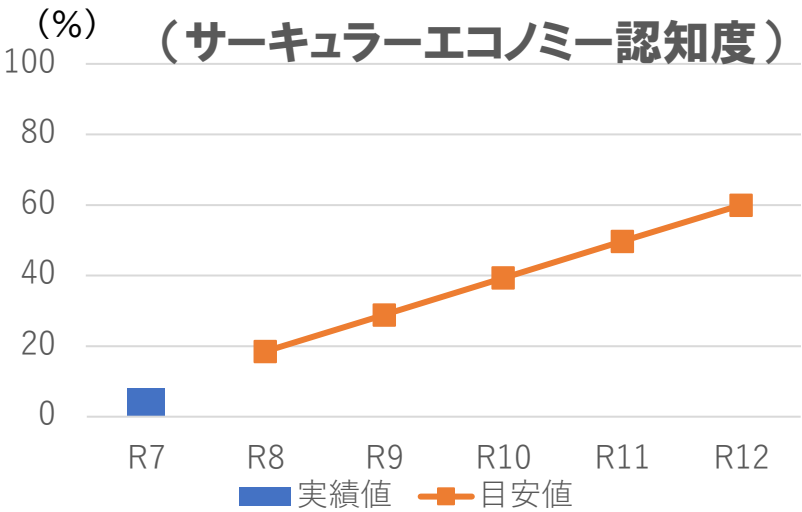




KPI⑤:県民のサーキュラーエコノミー認知度

	基準値 R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	目標値 R12 (2030)
目安値	8.1	18.5	28.9	39.3	49.7	60.0
実績値		※				

※R8.12頃ネットアンケートにより実施



○論点

サーキュラーエコノミーへの移行をさらに加速させるために
行政(県)に期待すること

(2) 県のプラスチック対策事業について

プラスチックごみ対策事業(全体像)



R元年度 (2019)	R2年度 (2020)		R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	
栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言（R1.8.27宣言） 栃木県プラスチック資源循環推進条例（R2.3.10制定）	栃木県プラスチック資源循環の推進に関する基本的な指針（R3.3.26策定）	(1)発生の抑制 3 R + 3 R の促進	マイバッグキャンペーン						
			排出事業者講習会						
				ワンウェイプラリデュース事業 （ベリテンライブ）			①ワンウェイプラ 削減促進事業		
		(2)循環的な利用の促進 リサイクル 分別回収 再生材等の利用促進	栃木からのボトルtoボトル リサイクル・パートナーシップ協定						
			②とちの環エコ製品認定制度						
			プラごみゼロ宣言 取組事例集		プラスチック代替製品 マッチング事業				
		(3)適正な処分 清掃活動・ 環境美化活動 処理施設の確保	③清掃活動等ポータルサイト						
			環境美化県民運動						
				スポーツGOMI拾い大会の開催					
						④とちぎ・プラ・ クリーンアクション（とちぎ530プロジェクト）			
			リサイクル施設等の立地促進等庁内連絡会議						
			(4)基盤整備 環境教育・環境学習 関連産業の振興 連携協働	海洋プラ動画 さかなクン講演会					
				⑥エコたび栃木プロジェクト					
		⑦環境学習出前授業（県内小学校）							
		⑧環境学習講座（なかがわ水遊園）							
		⑨プラスチック資源循環推進協議会							
		⑩市町勉強会の開催							



① ワンウェイプラ削減促進事業

●趣旨

プラごみ排出抑制のため、飲食店のテイクアウトなどで使用される使い捨てプラ容器等から、紙製や木製の代替製品へ切替えを行う飲食店を県HPで紹介。

また、店頭などでプラごみ削減の取り組みをPRできるミニのぼり旗を配布。

●応募の対象

プラスチック製のテイクアウト容器、ストローなどから紙製や木製等の代替製品に切替えを行っている県内の飲食店

●実績(R8.7時点)

・店舗数 20店舗

【参考】(R7.7時点)17店舗



使い捨てプラスチックの削減に取り組んでいる飲食店を紹介

栃木県環境森林部資源循環推進課

aib kitchen アイビーキッチン

- 容器等の切替えをしたきっかけ
紙容器は質感がよく、使いやすいため
- 切替えて良かったこと
手触りがよく、安心・安全で、環境にもやさしいこと
- ひとこと PR
お食事系クレープ「ガレット」 各種...850 円
季節のクレープ
シュガーバター(おいも・アップルシモン)...700 円等
※クレープ・ガレットは全て手作り、ホイップ用や食事に合わせて3種類の生地で提供しています。



- プラスチック以外の容器等に切替えた時期
令和7年6月～
- プラスチック以外に切替えた容器等
テイクアウト容器



NOWAS ノワース

- 容器等の切替えをしたきっかけ
紙容器は環境にやさしく、扱いやすい(音がしない、静電気で張り付かない)
- 切替えて良かったこと
分別が不要で、手間がかからない
- ひとこと PR
キャッシュ...単品 450 円・セット Box700 円
スープ (各種・日替わり) ...350 円
※国産材料使用の焼ききたてのキャッシュを提供
店長とおしゃべりも楽しんで下さい。
- プラスチック以外の容器等に切替えた時期
令和7年3月～



○プラスチック以外に切替えた容器等
テイクアウト容器





② 栃木県リサイクル製品認定制度 ーとちの環エコ製品ー

●概要

県内で製造販売されるリサイクル製品について、認定要件に適合した製品を県が認定し、その普及啓発を行うもの。

●認定プラスチック製品 13製品 (一昨年度認定)

- ・造園材 4製品
- ・樹脂製敷板 2製品
- ・梱包用緩衝材 2製品
- ・加炭材 1製品
- ・スチロールペレット 1製品

製品認定数（令和8年7月1日現在）

区分	紙類 事務用品	肥料 土壌改良材	土木資材	その他	合計
製品数	5	21	92	18	136

【参考】(R7.7.1時点)134製品

<造園材>
06-168(1)
公共施設ベンチ



認定事業者
ワールド・リンク株式会社
栃木県宇都宮市氷室町1277-2
080-1985-3987
公共施設ベンチ
廃プラスチック
(PP、PE、PET、PS、ABS、AS転写箔)
板材：30×90×1800

<その他の製品>
06-175
ジャストマット



認定事業者
株式会社オオハシ
神奈川県横浜市鶴見区
潮田町3-141-3
045-502-3052 (㈱リピープラス)
養生用・緩衝材用・
歩行用などの万能マット
電線被覆材(塩化ビニル)
(1)900mm×1800mm×厚さ5mm、
重量：約13kg、色：ブラック/表面に小判柄
(2)900mm×1800mm×厚さ10mm、
重量：約26kg、色：ブラック/表面に小判柄

<その他の製品>
06-173(1)
プチプチ



認定事業者
川上産業株式会社
栃木県下都賀郡野木町
大字野木922-2
0280-57-4982
気泡緩衝材
再生ポリエチレン
d37(標準粒) 粒径φ10mm、粒高3.5mm、
原皮幅1200mm/2400mm、
原反巻長42m/100m/200m



③ 栃木の森里川湖 清掃活動等ポータルサイト

●趣旨

地域で自主的な環境美化活動を行っている団体を「栃木の森里川湖(もりさとかわうみ)清掃活動ポータルサイト」へ登録いただき、団体の活動を紹介。

各団体の取組を発信することで、活動の輪に参加するきっかけとして活用している。

●登録団体

50団体(R8.7.15時点)

【参考】40団体(R7.5.1時点)



ボランティアで清掃活動をしている皆さま

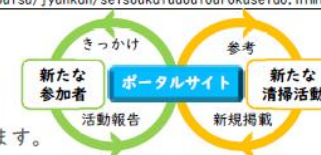
栃木の森里川湖清掃活動等ポータルサイトに
皆さまの清掃活動を登録しませんか？

栃木の森里川湖清掃活動等ポータルサイトは

ごみ拾いなどの清掃活動の取組の輪を広げたい！
そして、栃木の森里川湖から海洋に流出するプラごみゼロ！
という目的で始まった栃木県のホームページです。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d05/eco/haikibutsu/jyunkan/seisokutadoutourokuseido.html>

清掃活動の輪を広げるため、
皆さまのご協力が必要です！
この機会に、ぜひ、登録をお願いします。



①掲載団体になるには

活動の頻度、内容、ひとこと PR 等を記載した「掲載申請書*」を提出してください。

②清掃活動を実施したら

拾ったごみの量、参加者の声等を記載した「活動報告書*」を提出してください。

*「掲載申請書」「活動報告書」の様式は、県ホームページにご覧いただけます。

※** 掲載団体 (R8 年 7 月 2 日現在) **※

足利の山クリーンハイク/市貝ジュニアリーダーズクラブ/宇都宮海さくら/宇都宮高窓会若草会/宇都宮市河川課/宇都宮大学環境改善サポーターECHO/海と日本プロジェクト in 栃木県/(株)大岩建設/奥日光清流清湖保全協議会/小山地区交通安全協会 桑支部/上稲葉・自然を守る会/サンエコサマル(株)/塩原温泉観光協会/下川俣町地区自治会/杉の並木守(日光杉並木街道保護ボランティア)/鈴漣メンテック(株)/(株)セルクリーンセンター/ダイキン・コンシューマ・マーケティング(株)/(株)ダイセキ 関東事業所/高勢町清掃活動友の会/中興化成工業(株) 宇都宮工場/中禅寺湖クリーンプロジェクト/電気興業(株) 鹿沼工場/栃木県/公益社団法人栃木県産業資源循環協会 青年部/栃木県自然公園美化推進協議会那須支部/栃木県なかかわ水遊園(公益財団法人栃木県農業振興公社)/非営利活動法人とちぎ生涯学習研究会/非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク/利根川上流河川利用者協議会/那珂川をきれいにする会/仲田総業(株)/那須塩原市立塩原小学校/日光市シルバー人材センター/日産自動車栃木工場/日産自動車工場長会 栃木地区/日本サーファクタント工業(株)/日本山岳会 栃木支部/日本たばこ産業(株)北関東工場/日本たばこ産業(株)栃木支社/日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所/ノルディスクファーマ(株)SustainaBULL 部/ハートランドまちづくり隊/(株)ボンパック栃木工場/茂木町シルバー人材センター/(株)ハ幅/(株)リ・プラ/渡辺産業(株)

※50 音順、敬称略

栃木の環境美化県民運動へのご協力感謝申し上げます。



お問い合わせ・申請書等提出先
栃木県 環境森林部 資源循環推進課 企画推進担当
〒320-8501 宇都宮市埴田 1-1-20
電話番号 028-623-3228 FAX 028-623-3113
E-mail puragomizero@pref.tochigi.lg.jp



④ とちぎ・プラ・クリーンアクション

●目的

プラスチック資源循環推進協議会(R5.8)において、県民、事業者(製造、販売、処分)、行政などあらゆる主体が一体となって取り組める「ごみ拾い」を切り口にして総合的な対策を進める仕組みを構築するよう提言を受けたことを踏まえ、R6年度～ごみ拾いキャンペーン「530 project」を展開。

- ・R6年度:For me 530 project(私のための私らしいゴミひろい)
- ・R7年度:Tochigi 530 project(私とみんなと地球のために)

●Tochigi 530 project概要

R7.10/1～12/26の期間中に県内でごみを拾い、Instagramに投稿した方を対象として、抽選で賞品を贈呈

●R7年度の実績

- ・ハッシュタグ投稿数 396件
- ・リアクションの総数 37,707件

●R8年度の事業の方向性

- ・Instagramを引き続き運用し、参加者増を狙う。



⑤ 海洋プラごみ対策講演会

●目的

海洋プラスチック等による環境汚染が世界的課題となっており、海なし県である栃木県においても、川から海へのプラスチック流出など無関係ではないことを特に未来を担う若年層に対し発信し、海洋保全や地球温暖化防止等のためのプラスチック削減に関する一人ひとりの取組につなげる。

●イベント概要

日時:令和8(2026)年秋頃

会場:なかがわ水遊園

内容:①基調講演(海洋プラスチックごみの現状と課題について(仮))

※講師予定海洋プラスチックごみに専門的知見を有する専門家(大学教授等)

②エコたび栃木プロジェクト優秀校の取組発表

③特別講演(海洋プラスチックごみについて考えようin栃木県(仮))

※講師予定:海洋プラスチックごみに専門的知見を有する著名人

○特設コーナー

・地域団体等による継続的な清掃活動等の取組紹介コーナー

・とちぎ530プロジェクトのPRコーナー

規模:1,000名程度





⑥ エコたび栃木プロジェクト

●趣旨

修学旅行という一生の思い出になる場面において、栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言の本旨である「プラスチックとの上手な付き合い方」に取り組んでもらうことで、使い捨てプラスチックの削減意識の定着を図るとともに、観光関連のごみ削減につなげるために、小学校等の修学旅行を対象とした「エコたび栃木プロジェクト」を実施。

●応募の対象

修学旅行中に以下の「3つの環境にやさしい取組」を実施。

- (1) 歯ブラシ、歯磨き粉の持参・使用
- (2) マイバッグ、マイボトル(水筒)の使用
- (3) 食べきり・食べ残しの削減

●エコたびチャレンジ

本県が定めた3つの取組以外に、各々の学校が設定した独自のエコ活動を修学旅行中に実施する取組。優秀校には表彰状を贈呈。

●R7年度の実績(R8.3末時点)

146校(10,433名)が参加、うち32校が「エコたびチャレンジ」に参加

【参考】R6実績(R7.3末時点):151校(11,107名)が参加、うち77校が「エコたびチャレンジ」に参加

令和8年度

エコたび栃木

参加校を募集中! 修学旅行

※この事業は「とちぎふるさと電気」の資金を活用しています

栃木県内の小・中学校及び義務教育学校[※]の修学旅行又は、栃木県内に宿泊する県外の小・中学校等の修学旅行において、環境に配慮した下記「基本の取組」を実践する学校を募集します。

※特別支援学校小・中学部を含む **“令和8年度の修学旅行が対象” 応募締切 令和9年3月12日(金)**

基本の取組

歯ブラシ・はみがき粉の持参

マイバッグ・マイボトル[※]の使用

※感染症対策等により、ペットボトル飲料などを
使用する場合は、ラベル、キャップなどの分別を徹底し、
リサイクルを図る。

食べきり、食べ残しの削減

ご参加いただく学校には修学旅行で使用する「栃木県オリジナルのエコバッグ」を修学旅行生**全員分**お送りします。(先着順)

折りたたむとコンパクト!

修学旅行で使ってね♪

さらに!

エコたびチャレンジ

学校独自のエコな活動を事前に考え、修学旅行中に実践してみよう!
優秀な取組をした学校には栃木県オリジナル木製表彰状を贈呈します。

応募締切 令和8年12月11日(金)

エコたびチャレンジの例

- ・サーキュラーエコノミー(循環経済)を意識した旅行先でのごみ分別
- ・旅行先でのごみ拾い
- ・ポスター作成・ワークシート活用・取組発表 etc

優秀校を表彰

栃木県と県内25市町は、「栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言」に基づく取組を進めています。

※本事業は環境省のPlastics Smart登録事業です。

“とちぎカーボンニュートラル15アクション県民運動も実施中!”

⑥ エコたび栃木プロジェクト

●エコたびチャレンジ優秀校の取組(R7):一例紹介

学校名	作新学院小学部	児童数	75 名
【取組ポイント】 ○エコポイントがたまるワークシートを作成 ○ルーレット・くじ引きできるオリジナルアプリで、当日の重点活動目標を決定し実施 ○エコたび栃木ドレミの歌で、環境意識を定着 ○食前食後の祈り ○観光地のゴミ拾い（回収した PET キャップは地球環境クラブに寄贈） ○文化祭・保護者会等で取組を発表 【取組をととして】 保護者や下級生にも、環境保護に対する意識が高まった（手前取り、エコマークの確認、アルミ缶回収への積極的な参加など）		【写真】  ワークシート・アプリ・ドレミの歌で楽しく活動  文化祭で取組を発表	

学校名	宇都宮市立田原中学校	生徒数	69 名
【取組ポイント】 ○修学旅行での大阪万博・京都市内観光施設ごみ拾い ○SDGs 13「気候変動に具体的な対策を」への挑戦（自分たちができる脱炭素ツアー） ○活動の様子を、学校HPや研究部会等で発表 【取組をととして】 生活への衛生的な取組や環境活動への考え方に変化が見られ、ごみの丁寧な分別、節電・節水、食べきりをはじめ、地域貢献意識など道徳的価値を育成することができた		【写真】  万博・京都市内でごみ拾い(持ち帰り)  エコバッグを使用	

⑦ 環境学習出前授業（学ぼう！ごみを処理する施設）

【参考】R6実績：計4校(328名)

●R7実績

計4校 231名
(うち1校は座学のみ)

内容(50～90分程度)／小学4～6年生対象

(1)座学「学ぼう！ごみを処理する施設」

自分たちが日常に出す身近なごみが、どのように処理されているか学ぶ講座です。ごみ処理(リサイクル)が快適な生活を送る上で欠かせないことや、ごみ分別の大切さなどを動画・スライドを用いて学びます。

<授業風景>



(2)パッカー車によるごみ投入体験

(公社)産業資源循環協会青年部の協力により、パッカー車(ごみ収集車)を学校の校庭に派遣し、児童にごみ投入体験をしていただきます。(日にちによっては派遣できない場合があります)。

<ごみ投入体験>



(3)寸劇「プラスチ郎」

(公社)産業資源循環協会青年部の協力により、浦島太郎を模した寸劇を行います。海洋プラスチックごみ問題及びごみの分別について、一緒に考える内容となっています。

<寸劇>





⑧ 環境学習講座（なかがわ水遊園）

授業風景



エコバック作成（お絵かき）



●趣旨

児童の段階から、日常生活で発生するごみを題材に海洋汚染との関わりを学習し、環境に配慮する意識の定着を目的に実施しています。

●場所／日時

なかがわ水遊園おさかな研究室
(5月～3月、月2～3回程度実施予定)

●内容

- ・海なし県からも、身近な物が河川を流れ海洋に漂着する可能性を学習
- ・海洋漂着ごみの生物に与える影響やごみ削減方法の検討
- ・児童の日常生活における意識定着効果を想定したエコバッグ作成体験等

●R7年度の実績(R8. 3末時点)

- ・延べ33回開催(延べ193名参加)

【参考】R6年度実績(R7.3末時点):延べ33回開催(235名参加)



⑨ 栃木県プラスチック資源循環推進協議会

●趣旨

排出者(製造等事業者及び消費者等)、処理事業者及び市町の関係者に加え、学識経験者の知見等を加味し、県内のプラスチックごみに係る適正処理・資源循環の促進を目的とする協議会を運営

●構成員

学識経験者(1名)

製造等事業者関係団体(2名)

消費者団体(1名)

処理業者関係団体(1名)

行政(県及び市町※3名)

※～R4年度:足利市・芳賀町、R5年度～:栃木市・高根沢町、
R8年度～:那須塩原市、壬生町



●開催頻度

1～2回／年度

●協議事項

- ・プラスチックごみの排出・処理等に関する現状・課題の情報共有
- ・プラスチックごみ対策に係る今後の施策展開 等



⑩ プラスチック対策に係る県と市町の勉強会

●概要

先進市町の取組を横展開するための情報交換の場の役割

- ・開始年度 R1～
- ・開催回数 14回

●R8年度第1回(5.26開催)における主な議題

- ・県におけるサーキュラーエコノミーへの移行の推進について
- ・製品プラスチックのステーション回収を予定している市町からの事例発表
※宇都宮市、高根沢町

製品プラスチック分別回収実施市町数 (R7)

13
(イベント回収:9)栃木市、大田原市、那須烏山市、
那珂川町、塩谷町、益子町、芳賀町、茂木町、
高根沢町(※R8秋～ステーション回収実施予定)
(拠点回収:3)那須塩原市、さくら市、那須町
(ステーション回収:1)壬生町(不燃ごみ回収後に分別)
※宇都宮市はR9～からステーション回収を実施予定

容器包装プラスチック分別回収実施市町数 (R7)

12
(ステーション回収:11)宇都宮市、上三川町、鹿沼市、
大田原市、那須町、塩谷町、高根沢町、
さくら市、小山市、野木町、下野市
(拠点回収:1)芳賀町